

令和4年度 第2回大崎市陸羽東線再構築検討会議 会議録

1 開催日時 令和4年12月26日（月） 午前10時～

2 開催場所 大崎市地域交流センター 1階多目的ホール

3 出席者 下記名簿のとおり

(1) 検討会議

No.	役 職	氏 名	備 考	出 欠	
1	副市長	吉 田 祐 幸	会長	○	
2	副市長	尾 松 智	副会長	○	
3	市民協働推進部長	伊 藤 文 子	幹事長	○	
4	総務部長	赤 間 幸 人	幹事	○	
5	民生部長	洪 谷 勝	幹事	○	
6	産業経済部長	寺 田 洋 一	幹事	○	代理
7	建設部長	茂 泉 善 明	幹事	○	
8	教育部長	宮 川 亨	幹事	○	
9	病院経営管理部長	中 田 健 一	幹事	○	
10	岩出山総合支所長	安 藤 豊	幹事	○	
11	鳴子総合支所長	伊 藤 正 幸	幹事	○	

(2) オブザーバー

No.	役 職	氏 名	出 欠	
1	東北運輸局鉄道部計画課長	岩 淵 正 宏	○	
2	東北運輸局観光部観光企画課長	長 内 誠	○	
3	東北運輸局交通政策部交通企画課長	小 林 拓 也	○	
4	宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課長	柳 澤 宏	○	
5	宮城県企画部地域交通政策課長	大 石 雅 邦	○	
6	東日本旅客鉄道株式会社東北本部総務部企画室企画課長	箸 方 稔	○	
7	一般社団法人みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長	星 義 一	○	
8	鳴子温泉郷観光協会事務局長	菊 地 英 文	○	

4 事務局 市民協働推進部まちづくり推進課課長 中鉢豊，同補佐 三澤香苗，
同主幹兼係長 千田貴憲，
市民協働推進部政策課課長 高橋直樹
産業経済部観光交流課課長 今野富美

5 説 明

(1) 地域懇談会の進捗と今後のスケジュール等について

6 会議の概要（要点筆記）

1 開 会

- ・事務局が会議を進行。

2 挨拶

- ・伊藤大崎市長

構成メンバーの方々，オブザーバーとしてご出席いただいた東北運輸局，宮城県，JR東日本，観光団体の方々，年の瀬の大変お忙しい中，ご出席いただき厚くお礼申し上げます。

前回の会議以降，精力的に会合を開いてまいりました。後ほど詳しく報告申し上げますが，一つは旧町単位の三つの地域で2回ずつ住民懇談会を開催致しました。私も副市長も懇談会に参加し，直接市民の方々と意見交換をしてまいりました。並行するかたちで住民の皆様にも働きかけを行ってまいりました。沿線にある中学・高校に伺い周知をし，学校内でも生徒や教職員で意見交換等を行っていただいたところもございます。各事業所，観光団体にもお願いし，それぞれ会合していただいております。各地域懇談会の構成メンバーの団体の中でもテーマにさせていただき，意見集約いただいているところであります。また，マスコミで色々と報道いただいたお陰で，市役所のほうに多くの反響や激励，具体的なお意見も寄せられており，JR，東北運輸局，宮城県にも進捗状況を報告しながらご指導いただいております。いただきましたご意見などの実現に向けて，改めてその責任の重みを感じております。

本日は各地域懇談会に寄せられたご意見・ご提案を報告，紹介させていただきます。年度末に報告書を作成したいと思っており，その構成などについても意見交換させていただき，これを具現化するための本格的な取り組みは，報告書作成後の令和5年度からになると思っております。広報おおさき新年1月号には，市民の方々から更なる意見を募集する情報も掲載させていただいておりますし，市役所職員の公共交通通勤デーを年明けに実証実験的に行うところであります。来年度の予算や組織体制を構築中でありますが，陸羽東線の利活用推進室の準備をさせていただいております。国も12月23日に閣議決定された新年度予算の中で，これまでにない最大規模の予算措置として，ローカル線関係で地域公共交通の再構築に関わる予算措置なども講じていただき，それに伴う関係法の改正なども年明けからの通常国会で予定されているということでもあります。ローカル線再構築に向けて，国も予算，体制，法整備も含めて応援体制をとっていただいておりますので，これらを活用，連携しながらこの再構築会議にてまとめ，実践に移してまいりたいと思っております。これを機に陸羽東線の現状認識を深め，多くの方々においでいただける魅力ある陸羽東線を皆で再構築したいという意見が殆どでしたので，その力強い応援に押される形で，ぜひ再構築会議を進めていきたいと思っておりますので，よろしく願いいたします。

年の瀬の大変にお忙しい中，コロナの終息も見通せない状況で，本日の開催になってしまったことを申し訳なく思いながらも，ぜひ陸羽東線の再構築にむけて更に一歩前に進めていけるような会議になりますことをお願い申し上げます。

- ・吉田副市長

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。現状について共通認識の広がり，そして危機意識の共有化に努めていたところであります。早速ですが大崎市図書館や古川学園様で呼応した動きがあり，大変ありがたいことと感じております。今後

取り組みをまとめていく中でいくつかポイントがあると思います。まず一つ目は危機意識の共有化、しっかりと深堀していくということ。二つ目は磨き上げ。ハード面、ソフト面の施策を充実して磨き上げを図っていくことです。三つ目は利活用のPR、周知の徹底でございます。生活利用面、観光利用面、両面にわたる利活用のPRを深堀してまいりたいと思います。本日も実りのある議論を進めまして、地域内外の皆様のご理解ご協力のもと利活用を促進してまいりたいと考えておりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

3 出席者紹介

- ・名簿に基づき事務局より紹介。

4 説 明

(1) 地域懇談会の進捗と今後のスケジュール等について

- ・資料1に基づき事務局より説明を行った。

5 意見交換

○伊藤鳴子総合支所長

本庁での会議等の際に、陸羽東線を利用したいと職員全員が思っている。内部的な意見としては、会場がもう少し駅に近ければというものがあつた。例えば、ふるさとプラザなど。関連して鳴子公民館、鳴子総合支所から鳴子御殿場駅のアクセスが抜群で、一分で会場に着くので色々な企業や関係団体の会議等に利用していただければと思う。

鉄道においては車と違って移動時間の正確性がある。特に紅葉シーズンや冬期間の車の渋滞にも巻き込まれず移動できるので、そうしたところもアピールポイントとして報告書に載せてはどうかと思う。最近車を持たない若者が増えているということで、そういった方をターゲットにしたものを考えていければと思う。

○安藤岩出山総合支所長

総合支所の全職員に対して陸羽東線の再構築検討、危機感ということで周知を図つた。週末のプライベートでの利用については、車社会なので強制的に乗るようになれば反発も多いと思う。「ちょい鉄」、「ちょい活」の程度で、職員においては週一、月一で良いので、意識して陸羽東線の活用に取り組んで欲しいと周知した。

行政区長や民生児童委員の皆様には地域をまわっていただくことが多いので、住民対話の中で話題提供をしていただき、各家庭どなたでもよいので、週一回、月一回利用する環境を作ることに協力いただくよう進めてきた。

そうした話をしたところ、只見線に行ってきたという人が訪ねてきた。只見線は沿線住民の熱量が違う。今、我々もイベントや景観でといったことをやっているが、只見線では、駅に人が集まり、ちょっとした産直があつたり、沿線を通ると農作業をしている人が手を振ってくれる。意識して歓迎をしていただいていることに感銘を受けた。更に沿線にある民家の壁に「ようこそ只見線へ」と横断幕があつたり、地域を挙げて只見線に対しての存続や、おいでいただく方への感謝の気持ちが伝わってきた。現在大崎タイムスにおいて、1週間に一回、陸羽東線の連載がある。そういったかたちで細くても長

く陸羽東線という言葉を目にする機会を多く捉える。支所便りの一角に、スペースを毎月設けて“皆で陸羽東線を活用しよう”という意味合いの一コマを継続的に載せていきたいと思っている。大崎市も各種団体に補助金を出して、それぞれの地域で年間1回は陸羽東線を活用した中での事業を組み入れてほしいというお願いをする。今後補助団体についてはそういったことをお話できたらということが内部での会議で意見があった。

○中田病院経営管理部長

コロナの感染が始まったときから、できるだけ移動しないということで、ウェブを使った会議を院内、分院間で開催することに努めてきている。また、病院勤務の職員は3交代ということで、なかなか公共交通を使う機会が少ない状況にある。前回の会議が終わったあとで、事務部門で会議や出張の際は、できるだけ陸羽東線を利用することや、プライベートでも使うようにという話をした。明日の院内の会議でも利活用について協力いただけるように伝えてくる。

先日塚目駅を利用した際、7～8人利用者がいて古川駅で降りる人が多かった。塚目駅の周りには穂波地区や竹ノ内地区など人口の密集している地区があり、県庁や仙台にある国の機関に通勤している人も結構いるのではということに気付いた。穂波地区の人口は1万人程いると思うので、塚目駅を上手につかって仙台に通勤していただければ、ベースとなる生活での利用というところが強く出せるのではないかと。病院から塚目駅への道路を夕方に歩いた際、やはり少し暗いので女性は嫌だと感じると思う。街路を明るくするだけでも女性や通勤にも使いやすくなるのではないかと。誰かが利用すればよいというのではなく、私たちが使わなければ陸羽東線は存続できないと意識付けをしていく必要がある。

○宮川教育部長

大崎市図書館で「ローカル線と歩む」と題して12月16日から特別企画展を開催している。陸羽東線を含めたローカル線に関する資料を紹介することで、陸羽東線の魅力を発信するとともに多くの市民の皆様に関心を持っていただき、陸羽東線の活性化に繋がれば良いと思っている。企画の中では、大崎タイムス社で連載中の「走れ陸羽東線」と陸羽東線の風景写真パネルの展示、ローカル線に関する書籍・DVD等、約60点を展示している。合併後の陸羽東線の新聞記事のファイル4冊も展示している。併せて陸羽東線の思い出のアンケート調査も行っているため、この結果についてはまちづくり推進課と共有していきたい。図書館司書の職員が岩出山在住の書籍や写真集等も出版している鉄道写真家と知り合いで、図書館のほうからも講演会などをお願いしたが、年度内は忙しいということだった。鉄道のパネルはお貸しいただけるということだったので、図書館で追加展示していきたい。この企画展については2月28日まで行う予定なので、ぜひお立ち寄りいただきたいし、アイデアなどあればお伝えいただきたい。

また、市民意見に公民館事業で陸羽東線を利用する、まち探検を企画するアイデアがあった。陸羽東線沿いには多くの史跡や名所が特に多いので、教育委員会でもこれまで「子ども歴史探検隊」という事業を夏休みに行ってきた。古川駅を出発して岩出山と鳴子の史跡を巡り、境田、新庄、山寺まで一泊二日で行っていた。震災やコロナ禍の影響からこのような事業を展開できなかったが、新年度もこういった事業も検討していきたいと思っている。

○茂泉建設部長

建設業の皆さんには現場に行く際に陸羽東線を利用といっても無理なので、家族サービスでの利用促進をお願いしている。利用促進ということで、駅やその周辺でのイベントを行うという話もあったかと思うが、一番は鉄道に乗ってもらうことなので、駅周辺でイベントをするとすると会場まで車で行く人も出てきて、駅の駐車場を広くするなどという違う話になってくる。改札の内側に入ってもらうことが一番大切なことだと思っているので、二次交通の話もこれまで出てきたが、タクシー会社と上手く連携して利用できないか、各駅が乗り入れできるのか、それをどうやって整備していくのか、周辺の整備として灯りの問題や道路の整備の問題がある。一過性にならないよう継続して利用者の増加に繋がるような対策が必要であると感じた。

○寺田産業経済部長（代理：安部産業振興局長）

産業経済部全員に既存の概念ではなく、行政や観光協会の関係も無視した自由な観点でということでアンケートを行った。内容は短期と中長期、ソフトとハードに分けた。短期のソフトとして、地域の主婦層に利用してもらうために一日フリー券、鳴子温泉郷は国民保養温泉地ですので滞在型が売りとなるので、それを推進するためには2泊宿泊者に陸羽東線3日間フリー券や、市民バス無料券を贈呈するなどできないか。滞在しながら暮らしを楽しむ、これはドイツで行われている取り組みとして紹介されている。仙台から鳴子への移動手段として新幹線を利用すると割引になる。マルシェや道の駅でのスタンプラリー、カブトムシ列車、居酒屋列車などのアイデアが出た。親子向けとして各学校の作品展。JR四国やJR九州では、JR社員と観光協会と行政で、日頃から観光や列車のあり方について話合っているということを出張の際に聞いたので、できればこのようなかたちができたらよい。企業から広告をもらい、期間を区切るラッピング列車、BDF列車、健康志向でサイクリングということから自転車を数台積載できる列車。

中長期的という意味では、目的地に魅力がなければいけないということで、平成14年から令和元年まで「まちを歩けば下駄も鳴子」という大型のプランがあったが、それを現代に併せて再プラン化、再構築する。魅力ある温泉街の検討は随時行っていかなければいけない。ハードとしては温泉街を歩きたくなる魅力ある街並み景観整備を同時に進める。SDGsということからハイブリット観光列車ができないか。企業に対しては陸羽東線を利用するようなイベントの企画等をお願いしている。

○渋谷民生部長

かわら版のようなものが手元があれば、それを渡しながら地域の企業にも今後の方向性や話の柱ができる。運転免許の返納者が増えているので、そういった高齢者の陸羽東線の利用は半額になるなどの割引があるとよいのでは。鳴子温泉に関しては雪掻きが大変なので、その雪掻き自体をイベントにして温泉の割引をセットにするなどして、市外からサポーターを入れて、イベントの中で困っている家庭をお助けするという、一石二鳥な取り組みはどうか。資料を整理し事務局に提示したいと思う。

○赤間総務部長

総務部で陸羽東線の利用促進を各課長に話したところ、ワンペーパーあるとよいとのことだった。利用促進をお願いするにしても、口頭だけだとうまく伝えられないのでA

4・A5両面1枚でよいので、ワンペーパーあると共通理解が深まると思う。事務局で全て印刷するのは大変なので、掲示板に載せてもらえれば、会合などある際は各部署で印刷すれば手間も掛からないと思うので、ぜひ検討いただきたい。

ここからは私の提案になるが、陸羽東線が廃線になるかもしれないという話を聞き、過去に廃線になった路線を調べた。興味を引いたのは北海道の広尾線。沿線上の魅力をいかに高めるかだと思う。例えば乗車証明書があり、それを旅館、ホテルのフロントにそれを出すと地場産品を一食提供のサービスを受れたり、定期券利用の方や乗車証明書を50～60枚貯めると、地場産品を提供するというような優位性を与えながら地場産品の消費にも繋げていくような視点はどうか。また現在は無人駅だが、かつては有人駅だった西古川駅や岩出山駅の駅前から徒歩5分から10分圏内で、補助金を出して事業をしてもらってはどうか。東日本大震災後に中心市街地の空店舗で補助金を出した経緯があるが、そういったものを駅前の活性化、賑わいに繋げるためにやってみてはどうか。陸羽東線と鳴子温泉をうまくマッチングさせて、千葉、神奈川でCMを流してはどうか。東京はキー局しかなくCM料が高い。補助金対象になればローカル局の千葉・神奈川でやってみたいと思っている。

○伊藤市民協働推進部長

11月12日に大崎市ゼロカーボンシティの宣言を行った。SDGs未来都市と併せてCO2排出削減、環境負荷軽減の部分に対して市が事業者と共に取り組んでいくという大きな契機になるように宣言をさせていただいた。その中において公共交通の役割というものには大きな効果があると思っている。市の地域公共交通計画は鉄道を基軸につくっている。11月に3地域との懇談会を開き、存続において地域の皆さんは強い熱意があると感じた。それを具現化して継続的に動き出していくのかは私たちに掛かっていると感じた。来年4月10日は陸羽東線の誕生記念日、尚且つ110年を迎える記念の年ということもあるので、一過性になるかもしれないが沿線上の賑わい作りとしてやってみたいことがある。アイデアのひとつで、記念日の前後に駅周辺でイルミネーションをやってみたい。シーズン毎の駅周辺のイベントに繋がり賑わいの創出になればよい。2桁以上陸羽東線を利用して、朝晩の通勤通学の光景を見て、この方たちの日常的な足を存続させなければいけないと強く思った。ぜひ乗車に繋がられるよう今後も頑張っていきたい。

○菊地 鳴子温泉郷観光協会事務局長

本日の資料のまとめ部分に、ぜひ他の自治体との連携も入れていただきたいと思う。県を跨いでおり、鳴子温泉の場合は湯めぐりチケットでシステムを共有してお客様をやり取りしているところもあるので、連携という方向性を入れていただきたい。参考になったのは図書館の取り組みで、各総合支所でも取り組んでいただきたい。併せて鳴子駅にも陸羽東線の歴史などを展示し情報発信していきたい。補助金を使って「陸羽東線を利用しよう」と一言入れたグッズをつくる。認識の広がりや危機感の共有を実践していかないと忘れていってしまう。それから何度も言っているがバリアフリー化を進めていかなければ、何をやっても一定の高齢者は物理的に来ることができない状況であるので、予算の部分をお願いしたい。二次交通の問題で、鳴子駅はタクシーが常時3台しか停まっていなくてそういったところのネットワークも必要。先日、観光公社とJT Bとのコラボ企画で酒のイベントがあり盛況だった。酒と列車の力はすごいと思った。

○星 みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長

陸羽東線に限らず、ローカル線の黒字化は難しいと思っている。しかし地域にとってはインフラとしての役割は大きい。利用促進に向けて市民運動を起こす、あるいは市民運動のうねりを起こしていくことが重要だと思う。市民にまず現状を知ってもらい共通認識を持ってもらうことが大切。地域内で取り組むべき具体的な内容を示していく。先程ワンペーパーの話があったが、具体的に示していかないと何をすればよいか分からない。具体的に示し、その後の経過等の情報を伝えていかないと市民運動としても意識が薄れていく。また、鳴子温泉郷のホテル・旅館と連携して、大崎市が掲げるSDGsということでバスや車に比べるとCO2が少ないので、皆さんに列車デビューするような仕掛けをするのもひとつの方法。PRについては、鉄道マニアに仕掛けて陸羽東線のファンクラブを作る、さとう宗幸さんに陸羽東線の応援歌を作ってもらうなど。フォトコンテストは外から列車を撮った写真がほとんどなので、列車からみたフォトコンテストを実施すれば列車に乗っていただく仕掛けのひとつになる。列車に乗らなければ買えないものや、体験できることを作り上げるとプレミアム感が出てくる。宮城県にゆかりのある伊達政宗公や松尾芭蕉をつかってスポットを紹介する。一部の車両でBDFを使った車両を走らせ、そこにラッピングをすれば大崎市が目指す未来都市と共通する。当然BDFは大崎市の事業者もやっているの、事業者にとっても大崎市にとっても良い、それが観光に繋がる。

○箸方 JR東日本東北本部企画課長

地域の皆様の声や各部（市役所）で非常に多くのご意見をいただき大変感謝している。アイデアについては社内で共有して、しっかりと大崎市とも連携し進めていきたい。先程街灯の話があったが、電車を利用してこそ分かることがあるので、まずは利用していただき、そこでの気付きが次の利用者拡大に繋がっていくので、少しずつでもこういった動きを広げられればありがたい。改めて当社としては採算性や収支を重視して路線の廃止を進めるということではなく、利用状況が最も大きいポイントだと考えている。鉄道はもとより地域の活性化に繋がることが望んでいるので、引き続き地域の皆様と様々な議論ができればと思っている。

他支社の話になるが、津軽線の蟹田～三厩間が豪雨災害によって現在不通になっている。これについてJR盛岡支社長が12月19日に会見した内容だが、「鉄道が運行できるようにするための工事、工期は着工から少なくとも4カ月かかり、工事費用は少なくとも約6億円が見込まれることが分かった。また津軽線は被災前から厳しい利用状況だった。仮に復旧したとしても鉄道の特性である大量輸送のメリットを発揮することは難しいと考えている。今後は単に復旧する・しないの話だけではなく、地域の方々と将来にわたって持続可能な地域交通体系に向けたお話をさせていただきたい」といったことを盛岡支社長が述べている。また繰り返しになるが決して鉄道を廃止することを前提に話しているわけではないので、改めてご理解いただきたい。当社としては一方的に情報発信するようなことなく、まずは大崎市の皆様や地域の皆様としっかりと議論、相談しながら進めていきたいと思う。先程の産業経済部からハイブリッド観光列車の話があったが、先般11月24日にJR東北本部長が定例会見でご紹介させていただいた。新しい観光列車として「SATONO（さとの）」というハイブリッド車両を、2024年春頃に、南東北の宮城県、福島県、山形県を中心に運行を開始するということがプレスさ

せていただいた。皆さんに親しんでいただけるような観光列車にしていくので今後ともよろしくお願ひしたい。

○大石 県企画部地域交通政策課長

市民の方が当事者意識を持って取り組んでいただくことが一番大事だと思う。やれることからやるということで、極論だがこれまで陸羽東線への乗車が年間0回だった人が1回乗る、1回だった人が2回乗る、あと1回全市民が乗っていただければ状況は大分変わるのではないか。平日は通勤上難しくても週末1回というふうに取り組んでいただけたらと思う。大崎市の取り組みを宮城県としてどのように支援できるかこれから検討していかなければならない。

○柳澤 県観光政策課長

コロナで公共交通利用者が減った半面、観光面においては密を避けたアウトドアということで鳴子にある宮城オルレやウォーキング、トレッキングというところに注目が集まっている。JRのほうでは駅が合理化で無人化が進んでいるところがあるが、駅長おすすめの小さな旅ということで、駅を起点としたウォーキングなどのイベントが以前は行われていたと承知している。コロナの影響で、密を避けたイベントという部分で駅利用での観光を大崎市やJRとも相談しながら取り組みを進めていければと思う。旅行商品をつくる際には列車を利用して目的地に向かっていただくような働きかけを旅行会社にしてはどうかと思っている。情報発信のほうではSNSを上手に活用して応援したい人たちが、陸羽東線や地元の隠れた魅力をお金をかけない範囲で参画してもらおう。SNSはそういう応援したい人たちのモチベーションを高めることができると思うので、インスタグラムを使った発信などできないかと思っている。先程ワンペーパーで意識の醸成を図るという話があったが、ステッカーや名刺にロゴを入れて、お金の掛からない範囲で自らも陸羽東線を応援しているという姿勢を他の人に見せることができる。そういったところから意識の醸成を図っていく。例えば陸羽東線に年間10回乗車すれば、大崎市長から感謝状がもらえるなど、スタンプラリーでもコンプリートすることでモチベーションに繋がる。

○小林 東北運輸局交通政策部交通企画課長

日常的に多くの住民の方々周辺自治体の方々に乗っていただく意識作りは引き続き重要だと感じている。地域懇談会の話があったが、そういう場に参加される方は、比較的こういう問題に従来から関心を持たれている方だと思う。地域の一人ひとりに危機感や意識醸成していく取り組みはいろんな方面からやっていく必要がある。

中学・高校への訪問や保護者の方との意見交換という話があったが、いろんなチャンネルからアプローチする必要がある。現在の陸羽東線の利用者や潜在的に利用の可能性のある方のニーズがどこにあるのか、データや生の声を集めていく作業は引き続き取り組んでいく必要がある。二次交通の件については、普段から地域に住んでいる方でそういう交通手段があると分かっている方はよいが、現在公共交通を使っていない若い方々や観光客や海外の方は、グーグルマップなどで調べると思うが、データの整理がきちんとされていないと表示されないこともあり、そこで認識されなければその交通手段はないものと同じ扱いとなる。乗合系の交通リストを国でフォーマットを定めてその整理をやっているが、大崎市では地域公共交通計画と連動しデータ整理も検討していくと計画

の中で書かれているが、市民バスについてデータ整理がされていない。例えば、古川駅から地域交流センターまでの移動手段をグーグルマップに入れると、バスはたくさん走っているのだが、車で7分か徒歩16分と出てくる。それが観光の中心地である鳴子でも同じことが起きているということになる。二次交通自体を使いやすいものに見直していくというのはもちろんだが、より多くのニーズを拾っていくという意味では分かりやすく見つけやすいものにしていくという取り組みも併せて重要だと思う。

報告書のまとめ方についてだが、最終的には陸羽東線を含めた地域全体をどうしていくか、目指す姿を打ち出して行くと思う。実現するためには目標を定めていくことになるが、目標はできるだけ数字で追えるものがよい。数字で定点観測しながら、取り組み状況が十分なのかを追う。そのようなかたちで報告書をまとめていただけると、指針として役に立つものになると感じた。

○長内 東北運輸局観光部観光企画課長

今年の10月から全国旅行支援が始まった。水際対策も緩和されて旅行者は確実に増えている。年末年始の宿泊旅行業の予約状況だが、楽天トラベルデータによると2019年の水準に戻ってきているが、東北はまだそこまでは回復していない状況。特にインバウンドは仙台空港の国際便がまだ復便していないが、仙台～台北線は4月から一日1便運行という情報もあるのでこれからまた動き出していくと思う。全国旅行支援は12月27日までになり、正月期間において宮城県でも1月10日から再開される。長い支援となるように割引率を40%から20%に引き下げるということで、その中で選ばれる観光地になるためには、皆様の意見にもあったように、まずは観光資源の磨き上げ、地域の魅力づくりと、利活用のPR、情報発信が重要になってくる。私どもが行っているのが観光資源の磨き上げに係る地域一体となった付加価値化の事業。補正は成立したが、まだ詳細な情報はきておらず、2月から3月にかけて説明会があり、3月下旬から4月末まで公告期間という予定。今年度は4月18日に公募締め切り、5月25日に審査会、6月には決定、という流れがあるので同じようなスケジュールで採択されれば、工事の期間も十分あり慌てることもないと思うので、準備を進めていただければと思う。

○岩淵 東北運輸局鉄道部計画課長

陸羽東線を内外に向けてどうPRすればよいかだと思う。応援団やサポーター制度があれば情報網や寄付を募る際にも一瞬にしてできる。津軽鉄道や三陸鉄道、只見線で地元の熱量という話があったが、まさにこれが熱量の基盤となっていて、そういった基盤をつくるのが期待される。陸羽東線は県境があり、山形県との県境の収支も公表され、広域連携でどのように維持活性化していくかということもひとつの課題であるので、協議会の中でもそういった県境の取り組みをどうしていくかの議論も入れていただければと思う。

○尾松副市長

これからまとめていくにあたり、色々なアイデアをいただくことは非常に大事だが、皆さんの意見にあったように、住民の方々がついてこない、市役所が勝手にやっていると長続きもせず、取り組みの輪も広がっていかない。地域懇談会に出席されている方は元々意識が高いので理解いただいていると思うが、こういうことについて意識をされていない方がまだまだ多いので、そこをどう取り込んでいくかを含めて考えていた

だければと思う。さまざまなアイデアを出してまとめたとしても住民の方々が、誰かがやってくれる、市役所がやってくれるという構造にならないようにしたい。サポーター制度という話もあったが、乗客としての住民、駅の傍に住む住民、まちづくりをする住民、観光業をする住民など、さまざまな層の住民がいる。住民の方々が自分が何ができるのかを含めて議論していただきたい。最終的には長年に渡り進めていく取り組みになると思うので、そういう枠組みに併せて考えていただきたい。

6 その他

- ・事務局から次回（第3回）の会議日時について案内
日時：令和5年3月13日（月） 午後1時30分から
場所：鳴子公民館ホール

7 閉 会

- ・尾松副会長の挨拶で閉会

以 上